



特100

289

よしの神



始



松平

持100  
289

# 平和の神目次

緒言	1
未婚者心得	3
夫婦の目的	4
男女の生方	7
賢兒の生方	10
育兒法	13
賢兒愚兒見別法	13
長男を賢する法	16
七八歳養育法	20
學童保護法	22

大正  
10.2.22  
寄贈

松平勉

寄贈

智仁勇は人道……………**豊**  
 神は自然の異名……………**奥**  
 階級は神意……………**奥**

# 平和の神

存齋老史人  
 曉香外史人  
 記述

## 緒言

人として此世に生れて平和ほど愉快なことはない世界の平和は  
 一國の親睦にあり一國の親睦は一家の親睦にあり一家の親睦は  
 父母妻子の心が同一でなくてはならぬ然し神でも平等などは  
 出来ない心は面の如しと云ふて各々相違のあるものなれど人に  
 は禮儀と云ふ規則があるから互に譲り合ひすれば各自持分の徳  
 と云ふ無形物が人の行狀の上に表はれて眞の親睦、愉快なる世  
 を送るので故に徳行の一家一國を上策とし之を王道と云ひ約束

命令の一家一國を下策として之を霸道と云ふ霸道は永く續かない永く續かないと禽獸と同様である幸ひ我國家は彼黃帝軒轅氏の王道を五千年も受繼で居るから昔は隣國君主までが東海の君子國と稱し敬慕して歸化された事は彼我の歴史に明かである然るに此比類なき王道を他國へ宣傳する智力に乏しく佛の入國以來霸道に陥りたる支那の事物を見聞して其優劣も撰ばず國家の貧富國體の如何も考へず真似て識者の憂を遺した近世も亦識者の憂を造りつゝあり畢竟我國は元來火山脈地で人の性切急な爲か自然を待の思慮が淺い思慮の淺き者や柔弱者が多くては神祖以來の國家を維持する事は出来ない之を維持して他國までに宣傳するには賢者を多く造るより外に良策はない抑も人賢なれば身も貴とく家も富む賢者多き時は必ず國家は榮ゆる人愚なれば

身賤しく家も貧しい愚者多き時は必ず國家は衰微する此事は誰も知てをる筈なるに國家の根本たる人種の改良を工夫せず枝葉の事業に金錢を費やして子孫の國家を如何する積りや憂慮の餘り茲に賢兒の出産を促す所以なり

### 未婚者の心得

健は賢なり耳目鼻口膚此五官の健全でなくてはならぬ其健全なる兒わ如何して得るかと云へば第一未婚者は求婚當時に彼此と氣迷よひせず左の標準に依り撰擇すれば餘り六都ヶ敷ものでない兎角是までの求婚者は標準なしに慾心深く撰ぶから反て媒介人の口車に乗せられ又は野合して後悔する事少くない遂に氣に入ぬと云て不人情に離婚して其から其と幾度婚姻しても左

様満足なる者を得られぬ結局本木に勝るうら木なしの譬へに終り後悔するものだ能々注意して撰ぶべし再婚は人格を落すものなり。

- 一、額の廣き者
  - 二、顔ヲタフク色赤き方
  - 三、體格の大きく太りたる方
  - 四、五官の完全なる方
  - 五、悪疾なき方
  - 六、大食並に間食飲酒せぬ方
- 額の廣きを撰ぶわけは如何なる動物でも各々同じ分量に腦を授けられて居るが胎内發育に不足したり生れてから病氣したりして減少したから頭に大小がある依て額の廣き者は腦量不足して

居ないから耐忍力の多き者である然し腦膜炎其他病氣の爲めでヲデコなどは宜しくない。

古來女は毛髪を用ひ頭を飾るから額の廣ひ狭ひは一見した位では判然せぬ殊に自國の畫工は富士山額を描くことが常習の爲にや争ふてフジ額を作る甚だ貧相に見ゆる支那の畫工は例の楊貴妃を描にも額を寛大にする其故支那の女子は毛を抜てまでも額を廣く作る者あり見て品位あるのみでなく太古に腦量の多きを撰むだ時代が有たに違ひない。

額の赤きやヲタフクを撰べと云は顔の赤き位な者わ母がら受た血液が多ひからのだ血の多き者は病氣も少なく腦に灌ぐ血も多量だから何事にも拔目なきものである又ヲタフクには邪心少なく柔順の者多く一家圓滿に過し易し物には一利一害の伴ふもの

なれば完全の者は少ないから醜貌位は我慢するを善とす兎角世の愚人は國や家の幸福を慮す。唯美貌の妻でないと女兒が生れて貰いてがないとか美人でないとか一生興味がないとか云て古賢の云た妻は愚にして妾は美なりとの金言も悟らず瘦形の色白き美女を求めて後日悲哀に陥る者が多い。

古肥後候の臣某は豪傑の子を生で忠義を抽せんと云つて醜ひ偉大の女を娶りたと云ふ又近ひ頃長崎の成瀬小溪は目明の者は其心が暗ひと云つて盲女を娶り此婦人は炊事の餘力に琵琶を研究して遂に東洋第一の名手と仰がれた凡そ男女を論せず美貌の者は兎角他人より持囃され己惚根性を起し美の上塗して常に修飾に心を奪はれ浮氣に月日を送り學問才能の秀でること少ないから老て後悔する者が多い。

我友美男子の稱ありし野口某は廿才の頃醫科大學に通學した其頃近邊の女子共に戀慕され勉強を妨げられたから流行の頭髪を剃落し梵頭になりしに其でも婦女子は芝居の清源だとか團十郎の天一坊だとか勝手に見立て、益々付纏はれたれど一切顧みず遂に大學を卒業された爲め世間で皆々が眞の士だと褒た彼腦量少き者は大概女色の爲に成業出來ぬことが多い。

體格偉大なるを撰べと云ふは近年陸軍徵兵官は壯丁の體格次第に劣等になり行くとして心配して體操や體育に世話役して居るが左様な枝葉に計り心を用ひても根本の父母が攝生しなくては何程心配しても効能がない其證據に都會の壯丁程乙種が多い何故なら體格検査を経て一番優等の士官でも酒を飲み肉を食ふから血液が亂調する亂調のため情慾を起し攝生を怠るから其子でも

不合格がある況や體格検査に合格せぬ者の子弟は日増に柔弱になる此儘放任して置いたら三千年の皇國は遂に病院敷地になりはせぬかと心配でならぬ兎に角體格の偉大の者は疾病も少く病に罹りても甚だしく疲勞しないからである。

五官の完全者を撰べと云つても五十年前と違ひ今日は衣食住の爲に五官の不完全な親の生むだ子孫だから甚だ少ない元來人間は左右合體のものにて勢ひ左右優劣もあり長短もあり目が甲なら鼻が乙とか鼻目が甲なら耳が乙とかにて都會の人程満足の者が少ない。

目の美しきを撰ぶべし美目と云て眼中黑白判然して露の垂る様な者は悪念がなく伶俐な者である其證據に彼乳兒の眼を視なさひ未だ慾念がないから眼中澄で恰も鏡みの様だ目を經るに従ひ

喜怒哀樂の情を生じ次第に濁眼ともなる然し美目でも近視眼や遠視眼の者は避たが宜しい萬一近視の者を妻に娶たら一生不便である古は五分もある文字の書物を讀したから近視眼など甚だ少ないが洋書流行以來は細字の書を授けるから次第に眼力が疲勞する殊に行燈から洋燈電燈と明る過ぎ眼力が減少して近視者が多ひから十分注意して撰ばなくてはならない。

耳は五官の中でも一等薄弱に出來て居て外見すること叶はぬ者ゆえ十分注意を要する耳の完全は耳糞常に潤ひ不完全は乾ひて居る古來聰明穎智と云ひ耳の發育完全を聰と稱し目の完全を明と云ふ聰明でない穎智でない其證據に耳の大きい者は能く聞へる能く聽へるから智慧が多い智慧が多ければ幸福があると云ふ處から惠比須大黒を福の神として崇敬するが皆耳を大きく作

るではないか。

鼻は成丈け厚く高さを撰ぶべし鼻の薄く低きは鼻の發育不足の者である發育不足の者は鼻孔に病を醸し易い第一外來の黴菌を殺し又は空氣を温め肺府に送るから寒胃にも侵されない昔は暗夜でも親兄弟などは嗅分たに違ひない今は大抵發育不完備だから僅かに香水や腐敗物位より外は知覺しない彼犬猫などは完全だから何事も鼻で知る。

口は食物の役ばかりでなく音聲の司さだから音聲の朗清を撰ぶべし音聲の善き者は舌下神經の發育良き者だ古語に舌は禍の根と云が無駄食したり無駄話するから禍ひにもなるが必用に迫りて食し必用有りて語れば決して禍にならぬ又言葉多きは品少ないと云ふて喋舌の人を戒しむるが女子は何國でも無口の者はな

い畢竟陰部の發育が缺乏した爲め反て舌の發育が善良になりたに違ひない或人は女子は志慮が淺いから無駄口が多いと云ふが學問才能ある者も喋舌が多い且又齒の堅牢なるを求るがよい齒の弱き者は胃腸病多きものだ胃腸の弱き者は健全の兒を生まない殊に都會の人程肉食や甘味を嗜むから虫齒の者が多い金齒が見へたら避けるが宜しひ。

皮膚の色を大別すると黑白赤あり成丈け赤き血走りたる者を撰ぶべし色赤き者は胎内發育完備の者ゆえ血液多き者だ血液多量なら第一知覺が敏捷第二病も少ない男女とも十二三才まで所謂金太郎然と赤色なる者は月經時期に入ると次第に脂肪が外皮を包み色白くなり恰も櫻花爛熳たる上に春雪を被むり居るが如く之を眞の優美と云ふヲタフクでもヲカメ顔でも此優美でない



健全の子孫は出来ない現今の如く白粉流行しては切角の優美も  
 撲び悪い實に三十年前までは藝娼妓淫賣婦又は婚禮席でない  
 厚粧する女は皆無なりしが今は馬鹿男や三十才後の婆さんまで  
 白粉を塗り付くる時代だから注意すべきだ。

古來可愛と云語がある之は皮が善いと云ふ語を漢字で書たまで  
 だ此可愛と云ふ語は男子より女子に向つて云ひ出したのだ何故  
 なら男子は多く發育善良にして皮膚の悪しき者は少ない女子は  
 概して發育不良だから血液の運行鈍き爲め顔にソバ精など出來  
 易ひ殊に都會の婦女子は顔に汚點が多い皮膚柔弱にして新陳代  
 謝の鈍き計りでなく石鹼を顔料用にするのも一の原因だ穀類常  
 食の人間は矢張舊來通り米の糠を濯料に用ひた方が適當してを  
 る糠は第一皮膚の微菌を殺し第二皮膚を細かにする効能があ

る。

惡疾なき者を選ぶべし癩病や肺病の者と結婚せば賢兒を生む處  
 か子孫が絶ゆる憂がある大食間食飲酒の者は忌むべし大食と間  
 食とは胃弱を起し易く胃弱は百病の本となる古より酒は百藥の  
 長と云ふが治療上藥品の血中に早く廻る爲めで決して酒が藥に  
 なるのでなく反て身體の害となるのに小量の晩酌は害なしと云  
 つて飲みたがる小量でも血の廻り早くなるから血管が一時に膨  
 脹する其酒が醒ると血管が縮む之が度重ると血管が薄弱になり  
 終に破烈する事あり且大酒呑の兒に健康者は少ない健康でない  
 から賢者にもなれない筈である。

## 夫婦の目的

前陳の如く健康者を撰で夫婦となりたる者の目的は健全の兒を生て上は祖先の遺志に答へ父母に安心させ下は子孫の永續を圖り自からも他日樂隱居でも仕たいと云ふ心から働くのだ古は三十にして室ありと教へた今日でも男子三十歳で身を立て家をなす方が相當と見ゆる又云三年子なきを去る成程妻を迎へて三年も四年も子の出來ぬ者なら必ず夫婦何れか不健康に違ひないから結婚して二年後は共に醫者の診察を受けて療養するが必用である去りとて十人以上も生では財産少き者は親も困難子供も不幸勝ちだから五六人が適當ならむ尤も賢兒出産法を守れば多數は出來ぬ筈だ先以て廿歳の妻を娶り妻廿三で一人廿六で一人廿

九で一人卅二卅五卅八で計六人産む女は男子より凡そ十年程早く衰弱するから三十二歳で婆さむ四十で中婆五十で大婆さんになると云ふから四十以上から産だ兒は血液が十分でないから健全者は少ないが稀には健全もある。

今日都會の求婚者を見聞すると金持の娘で學問が有て美女で柔順なるを好み女子も亦財産のある美男で學問優等で温厚で獨身者で酒嫌ひな男と縁組を望む。此が理想とか利益とか云ふが容易に見付らない萬一有たら一年や半年は面白ヲカシク暮すかも知れぬが月日立と共に互に非點が顯れ自然に親睦の温度が少なくななり互に及ばぬ事を注意する矯正する其から辯解する妻は夫より怜悧と思ひ夫は妻を愚物と心得へる夫の一言は妻が十言で答辯するから喧嘩口論となり度重ると結局離縁となる畢竟快樂

主義の結婚で有るからだ此等の輩は只夫婦さへ親睦なら親兄弟は無論無形物なる祖先など如何でもよい理想通り行はよし行ない時は離婚するのだと初から心に極込で居のだ恰も殖民地出稼連同様個人主義一點張りだから一步を進めば夫婦などと極つた束縛を全廢して貰ひたいと國會へ持出し兼ねない如此なると下等動物などと賤しんだ禽獸界と異なる處がない。

古聖は夫婦別ありと教へた夫婦は動もすると狎易く愛情のみに陥入り易いから表面丈でも人間らしくと云ふのだ愛は恰も山海の珍味の如き物であるが毎日食續けたら必ず厭が來る踈情になる不和になる卑竟恥羞の根源を貪り盡すから獸行に近くなる亂行の夫婦に賢才の子孫は出來ぬ詩に關雎は樂んで淫せずと云ふ何事も節約を忘れてはならぬ。

人には寸時も離れてならぬ恥羞の念が必用だ此恥羞の念なければ仁義禮智信の五常を行へない歐米人でも此五常を以て一家を成して居る況や五倫を行ふて三千年も傳來した子孫が禽獸に均し痴情丈では未だ其の文明とは云れない文明は汽車や電氣の利器あるのみを云ふのではない自然秩序ある行の人間が集つてこそ文明社會と稱へるのだ。

### 男女生方

萬物皆剛柔強弱を具へる故に剛強を陽と云ひ柔弱を陰と云ふ陰を女と稱へ陽を男と稱ゆるけれど素是一體の者だ其證據に動物は勿論草木でも此地球上に出てからは生氣繁茂せない物はない生氣があるから延び様ふ大きくなるふ進もう退くまひとして活

動する是が本性であるのだ決して私は女だ私は男に成のだと勝手氣儘に生れる分でないのに古來藪醫者連は右の卵巢に孕むと男を生み營養佳良は女を孕み月經後の卵は強健にて男となり或は精蟲已に男女の區別ありなどと云ふ果して精蟲に男女の區別が有ものなら生れた男子乳房などを具へる必用がなひではないか。

前述の通り男も女も剛柔二素左右合體の者ゆへ身體も精神も同等である只其發育力が僅かに陰部に不足した爲め女となり發育力が十分の爲め男となるのみだ結局女子は一局部不完全なる身體と云ふより外はない其證據に十七八歳の女子が陰部の變形になるとか全く男子に變化する事はあるが一旦男子となりては何程體外發育劣りても變女と云ふ事は古來未だ聞かない曾て女書

家某の如きは木戸公に變男なる事を觀破られ其が爲め公は其不具を憐み引立て高名に爲られた其故變男以來の書畫は一變して男子の筆力を生じた。

依て女子を生む事を望まずとも男子を生ことを心掛けすれば宜しきものだ男子を生むとするなら夫婦共に健康時期を見計ひ受胎を試み受胎したら直ちに同衾を禁じなさい左もないと胎兒の發育力を減じて女子に變し易きを恐るるからだ女子は體格弱く隨て力量も乏しひから勇壯の氣も少ない全身の毛髮も男の如く濃厚でない若し十六七にて濃厚になれば必ず毎月の經水が乏しくなる又全く絶るものだ。

## 賢兒生方

健は賢なり健康でない賢者になれぬ假に賢でも柔弱では國家に益もなく生れ代へなきものだ初婚の夫婦は共に健康であるのに亂行の結果婦人が先以て不健康になり其不健康になりてから孕むから不健康なる兒が生れる不健康な兒は賢者になる處が生れるが早く醫者や藥りの厄介になり幸ひに健者になりたりたて元々血液が不十分だから到底長生はせぬ者だ係る不健康者計り世の中に多くなつたら國家は滅亡する夫婦共に其身を愛し家を愛し國を愛すなら勉て健兒を生ねばならぬ。

荀子云ふ十日に一御と俗説には春三夏六秋二無冬と其他説あれども何れかの一方を嚴守せば夫婦共不健康になる事なく必ず健兒を生ことが出来る又世に鬼神あることを信じて崇拜する者は先以て鬼神に賢兒を授け賜ひと祈るもよろし祈願して孕めば胎内の兒は神なり同衾して神を侵し汚すと罰があたる昔は叔梁紇が顔氏の女と尼山の神に祈願して孔子を生だ例もある。

夫婦が春三夏六の制を守れば必ず血液充滿なる玉の如き健兒を生む健兒とは古來赤兒と云て總身赤き者だ果して健兒なら産聲の外に泣聲を立ぬものだ泣兒は不健康の兒と思ひなさい小兒の不健康は親の罪と思ひなさい又胎内發育は十分でも生後に不健康になるものは之も親の保護が不足か又は母親の不攝生より起るものだ哺乳中は決して同衾してはならぬ近世の夫婦は快樂主義に走り妊娠六個月はをろか甚だしき者は臨月までも同衾する爲に胎兒の發育を妨げ其上出産後百日も經ぬ内に同衾するから

切角賢質を備へた小兒の衛養を削り去り遂に不完全な體格にしてヤレ此兒は能く泣とか此兒は風を引易ひとか罪を數へる親は恰も我夫婦は淫亂ですと白狀する様なものだ結局人の人たる恥羞心に乏しい者と云はねばならぬ

### 育兒法

- 小兒を育てるには勤めて自然に任せ保護することが肝要である
- 第一産婦に左の條項を守らすこと
- 一 出産後十一日めに枕直しする事
  - 二 出産後廿一日めに起出ても宜しきこと
  - 三 産婦に一年間は妊娠中と同じく氣がねさせぬこと
  - 四 産婦に力役させぬこと

- 五 哺乳中は夫婦同衾を嚴禁すること
  - 六 哺乳中産婦は妊娠中と同じく滋養多き食物を與へること
- 幸ひに胎内發育は善良でも胎外發育が鈍ぶると賢き者にはなれない凡父母は我子の多少にかゝはらず皆其兒の健康と美貌と伶俐なるを望まぬ者はない莊子に寶を捨て赤子を負て逃たと云ふ譬への通り此上もなき可愛き者なるに生れた兒が弱くて朝夕ピイ々々泣きたりシカメ顔したりするのが年々増加するのは皆父母が求めて半熟の小兒を製造するからだ小兒は生れながらにして愚鈍な者は一人もない皆釋迦や孔子の様な聖人君子に成れるのに日一日と過ぎ去に従ひ親の保育の不足又は保護過て遂に愚物にするものだ元來生れた計りの時に賢も愚もない皆無我無心なる玉の如き者で欲念もない唯哺乳の欲は日々發生するものだ

其欲の多き者が弱者になり愚になる欲の少ひ者が健康で賢者になる健も弱も賢も愚も親の心と養育一手になるものだ然るに近世父母に無我無心の者なく慾情強ひ爲め赤兒に其慾情が反射して日々欲念多き兒となる

産後十一日目を枕直しと云ふ此日までは産婦と小兒と共に安靜に産褥中に在るの日だ寢返りしても宜しくないから初て枕直と云ふのだ昔は人間も少なく母親の體格も健康でしなから今の犬猫の様に自分で産兒を取揚げたり自から食物を探して歩いたり仕たが年々此世に人間が増えて來て氣候も變り體格も小さく不健康になり衣食の欲念も増長仕たから身體が弱くなり果たのだ  
産後三七廿一日間は起居すべからずとは古來から廿一日まで立居を禁じたのは平生強健なる婦人に命じた言葉だ柔弱なる者に

は其以上安靜にするを良とす家人は右の期間晝夜とも産婦と小兒を同體と心得大切に保護せなくてはならない然るに愚物や慾張姑は産婦と小兒は別物だと心得誰は十一日目から起きて洗濯したとか誰は自身で小兒を取揚げたとか云ふて一日も早く産婦に働らかせて自分が樂でも仕たいとか産婆費用を稼がせんと慾張るから反て産婦に病まれ小兒に病れ藥代を費すこととなる卑竟一を知て二を知らぬ愚人ではないか

産前産後氣がねせぬ様にとは氣兼や心配は強く腦神經を疲勞さすから血液は腦に計り上り胃腸の方は血液が減する減すると胃弱になる胃弱になると血液の製造が少なくなるから腦の血液も十分廻らないから神經衰弱を起し爲に發狂する者もある注意すべきは最も此時期にあるのだ

哺乳中は力役せぬとは強きを自慢して働き過れば直に身體が疲れる疲勞した母の乳を吞だ兒は柔弱に育つより外はない  
 哺乳中夫婦同衾をせぬ事世の愚人は一時の快樂を好み永久の悲みを知らぬから憐れだ此愚人は都會に最も多い故に都會生の者に賢者なしと云ふてよい彼肺病癩病黴毒の親でないなら決して五官の不完全に生るものでないのに歳月を経て來て耳が悪いか眼病だとか五官の一部に不完全を起す者は多くは其父母の不攝生から又は家人が出産より十四五歳までの發育盛なる時代に只表面の健全を見て身體各部の不備に心付かぬ結果である  
 哺乳中産婦は妊娠中と同様滋養多き食物を與へよ粗末な食物は愛兒に粗末な乳を吞ますると同様である粗末な乳は水分計り多いから多量に吞む胃弱を起す次に乳を吐くものだ

哺乳中は最も自然に任すべし自然が神様だ  
 世の愚人は愛情に走り自然養育を知らぬ爲日夜我子の賢質を削り遂に愚質にする者多し何故なら未だ目も判然見へぬ中から風車などの玩弄物を買って強て目の發育を勧め或は太鼓を叩いて耳の發育を強たりするから或局部は其が爲め發育を鈍くする恰も室咲の花と同様善良な菓實は出來ない暫く愛情を捨て自然に保育するときは各部同時に程能く血液運行して平均に發育するものだ

犬猫の育兒法に仿ふべし

彼犬猫は五疋生ふが六疋生ふが平均に育て皆健全です古來出産すると三十日を過て宮參りをして親戚朋友の家を訪て無事なるを披露すると犬の様に健康に發育なさいと云意味にて犬張子を



祝て呉る然るに少し物が見ゆると未だ笑筋の發育も仕ないのに無理やりに笑はせたりして不平均なる發育をするから少し細字の本でも讀様になると直に近視眼になつたり或は耳の病を起して聽力が鈍くなる者近來少くない係る人間が幾千萬増加しても優勝劣敗の世界に在て此國家を維持することは思束ない是皆父母の罪惡だ

### 哺乳中は決して食物を授げぬ事

世間無智なる親は只我兒の大きくなるのみを喜び賢者にすると云ふ考へもなく未だ齒も生へ揃はぬ小兒に菓子など喰せて遂に胃腸病となし胃熱を起さし延て腦膜炎となし半馬鹿にして仕舞も知らぬ者が多い假令齒が生へたとて前齒丈では物を噉碎く力

が弱いから善く噉ずに吞込む胃の皮も未だ薄弱だから消化力が鈍く消化に時間を費す爲め乳酸を醸すものです發育の良不良に柄はらず哺乳は適當を善とす泣たと云ては哺乳させ怒たと云て哺乳させ時間が來ぬと云て飢泣しても哺乳させぬ是皆自然の保育を缺た行方だから健者にも成得ない況乎賢者にや彼犬猫を御覽なさい我乳には相當に糖分が含てあるから哺乳中食物は勿論甘き物など小兒に與へませんから六疋でも八疋でも目かちも豊もなく下痢したり寢尿する兒もなく皆健全に育てゝ行ではないか

### 成へく産婦の乳に限る事

古來米食人が俄かに肉食人の眞似をして牛乳や羊乳を吞せるか

ら菩薩心の小兒は次第に獸心となり罪惡を働き兩親に心配させ他人に迷惑を掛るものだ元來子兒を生で自分の乳が出ないとか脚氣病があるとか云ふ婦人は多く平生不攝生から來るものだ我攝生法を守る者には決して左様な不幸に陥る心配はない筈だ

### 頭髮を剃らぬ事

世の迷信者は七歳まで小兒を梵子同様に頭髮を剃落し或は産毛は不潔の様に心得て剃落す者がある産毛は自然に抜變るものだから心配するには及ばない萬一種物でも出來ると胎毒が發した親が黴毒なら遺傳したかも知れぬが胎内に在て其程病氣のある者なら健全に生れ出る者でない是皆自然と云事を知らぬ連中だ彼犬猫を見たまい頭髮が濃から氣が惡からうと云て短かに噬

切様子でもない元來生へべき所へ生へた毛だから決して必用のない物でない第一頭は高山の様なものだ高山に草木がないと土砂が崩れ易いと同様發熱易い其故常に頭を冷す爲め毛髪が生へて居る其證據に古の僧は隔日頭をくり／＼に剃から十中八九は目が悪い今日流行の一分刈頭は未丁年者でも餘り喜ない況乎赤兒の頭を短かく刈り盡すから近來の學童は動もすると頭が痛いとか近眼に爲つたとか神經衰弱とか卑竟自然の衛生に反するからだ

十四五歳まで夜尿する者がある結局膀胱の括約筋が發育不充分の爲めだから是等は一ヶ月も肉食させて局部を一日三回も摩擦したり或は温めてやれば全癒するものだ世の愚人は愛兒の臀を然たり叱責したり湯茶を吞を禁じたりするが何の益にもならぬ

三二  
反て泣かしたり悲ませたりさせて半愚にするものだ

### 泣兒は注意する事

曾て加藤弘之未だ博士にならぬ前學士會の講演に小兒の泣のは決して心配に及ばぬ泣のも一つの運動だからと云ふた此説は取に足らぬ元來健全なる小兒は産聲を揚たら後は寢兒垂れ兒と云て極々飢渴にならなくては漫りに泣くものでない泣易き兒は身體の何れかに故障があるものだ能々監察して療治が專一だ其證據に泣兒をヨイ々々と振動してやると或は泣止むものだ此は身體の一部未だ發育せぬ個所又は病の部に血液が運行するから一時其部が癒へる恰も胃の痛むとき胃部を摩擦するか又は温たかき手で押へて居ると一時治ると同様だ

哺乳時代善く泣兒は成長しても善泣者だ五つ六つの徒ら時代に誰が瞋めた誰が撃たたと泣て親に訴へる兒なら身體幾部の發育が不完全だから賢者には成ぬと斷念なさい賢者になる兒は傷つけられて涙汲しても漫りに聲を立て泣訴る者でない是等の兒は身體各部平均に發育して居から無神經の如し小兒時代から神經過敏にして伶俐な者なら長じて健康を損し凡愚にも成れぬものだ

### 賢兒愚兒見別法

誰見ても賢兒と愚兒は見別得るものだ梅檀は二葉より香ばしと云ふて小兒時代に賢兒は元來胎内に在て滋養を十分取りて發育して居から第一頭髮が濃厚で第二血液が充滿して居から量目が

多いものだ係る小兒は日々太て繪に書た金太郎の様に育つもの  
だ愚兒は胎内發育が不良だから氣安めに太ても胎外發育だから  
血液の養素が少なひ爲め早く色白くなる幸ひ成長しても詩經に  
所謂顔せ渥丹の如き者にはなれなひ

### 寒暖に依り衣服に注意の事

愚人は徒に愛情に狩られ寒がる暑かると云て血温少な我身に  
較べて強て暖過る衣類を着せ暑中は暑かるとて薄衣をさせ時  
々氣候に中られ發育を防たげることあり凡人五十歳以上は年々  
寒暑に感し易くなるから自身の體温に較へて小兒を養育するは  
大間違ひだ故に年寄兒は弱いと云ふ

### 小兒に嗜好を教へぬ事

小供七八歳になりても甘き物の外は嗜好力に乏しいものだ愚の  
親はヤレ蒲焼だ牛肉だ天婦羅だしる粉總て胃腸を害し易き品を  
作り是は甘ひから喰ろ是わ何だからと説明付で喰せるから早く  
美惡を覺へ自然に贅澤心を起し反て弱き身體にする者多し係る  
養育は小供を愛する念がないと同様だ我兒か可愛なら自から間  
食を廢して保育せなくては健全の兒に成れない又近來都會に鹽  
煎餅屋か増加した小兒の腸胃病之か原因をすと云て醫者か歎  
息してをる

## 小兒を玩弄物にせぬ事

凡愚な親や姑は初めて兒が生れると愛情に引され所謂水兒を抱へて外の空氣に晒し歩く危嶮千萬だ且又一年も經ぬ内から丁々々々又はアワワなぞさせ或わ立せて見たり匍行させ小兒の運動と心得居る殊に三四才になると客に對し禮式又は漫りに事物を教ゆる者あり此等は未熟の腦を害ふものだ小兒は慾念なく神の如し故に自然に任せて養育するときは身體各部自然に揃ふて發育するから成人も及ばなひ智力がある其證據に三四歳からうるさく事物を問糺すものだ此時期親は其兒の問に明答すれば眞の教となり賢者になる餘り問れてうるさひなどと叱る親がある此親は必ず氣短だから其兒も次第に氣短を覺へて短氣になる短氣

の者に賢聖はない諺に三つ兒の魂百までと云ふ問ぬ事を強て教ゆるは反て其兒の腦力を疲勞せしむる恐があるから急いで怜悧に育てるものでない小兒の時期は愚鈍がよい早熟の兒に賢人はない

## 四十八の恥かき兒

昔は婦人四十七八になると多く月經か止む止まないでも胎む者か稀だから如此云ふたものだ近來の人間は情慾が強ひから胎む者が多ひ現に田家に四十八歳の者出産せり他見を恥て小兒を庫中に置き死ねがしに取扱ひせしも餓死させても罪の程恐ろしと思ひ時々乳を吞ませ又は食物を與へ抱揚る事もせず一年間も棄て置たのに反て健康に育ち偉大なる壯者とわりました畢竟發

育時期に愛育されぬのが天然發育に叶うたのだ此兒をして教育を施したら必ず有名な人になりし者を惜ひことに耒耜に一生を終る身となり居ると云

### 長男を賢者にする法

長男を總領の順祿と云て親の家督を相續することは今日も民法に定てあるから士農工商ともに長男は賢者でないとい一家全滅して祖先の祭りも出来ないのに兎角長男は弟に劣り勝が多ひから卑しめて甚六など云ふ何故長男は賢者に成れないと云と全く不幸なる時期に生るからだ不幸時期とわ凡婚姻か遅くても女廿歳以下男三十歳以下姑わ五十歳前後第一經驗のある姑わ我身の若き時の拙なき事は總て忘れ巧者だけ記憶して居から若夫婦共の

拙なき事を見付次第親風を吹かして一も二も世話役最中の時代なれば善も悪も若夫婦には難有くは感するものでない餘り世話役しては嫁が心配する心配すれば頭へ計り血か登つて胃腸に血か廻らなひから胃病を起し易ひ胃か健康でないと子を孕むでも其兒に十分血を分て遣れない血の少ひ兒は弱ひ弱ひ兒は賢者になれない賢者でなひと愚物だ愚物は不良少年だ不良では祖先の名を汚すのみならず切角今日まで繁榮した家は潰れる家が潰れれば老ばれて路頭に迷はねばならぬと先々までは無論明日の事も考へず唯々生れてから寝ても起ても孫の生長のみ急き慾深く老婆心で寵愛計りする者が世の中に多い夫婦も只血氣に走り攝生と云事は打忘れ且又初ての兒ゆへ經驗もなく只夫婦間の釘び嫁姑の和合劑と心得徒だ寵愛に目も放だれぬ様子殊に全身發育

盛なる三四歳までは最も可愛時期だから日日愛情に溺れて萬端注意を怠り未來に悲哀の種を蒔こと多し若し各自か此時期に愛情を割ひて自然に保護したら必ず其子其孫は胎内發育は十分でなく賢者に成なくとも身の健康位は保てるに違ひない然るに餘り愛育過き世話役過て遂に貧弱の兒が或は伶俐過る者になる彼神童などと褒らるる者は早熟兒だから成長の後凡愚となるか又は早死する者だ

### 七八歳養育法

世俗人の小供を見舞ひ健全ですかと云ふ答へて健全だと云ふ決して今日生る兒は健全に成長して居らない殊に濁水同様なる都會生活者には健康者は少なし何故なら親其者が情慾一點張の不

健全者だから其子に眞の健全は出来る筈はない一人でも有たら我賢兒出産法に暗合してをる決して醫藥を用ひない計りが健全者でない古來から諺に七ツ八ツわ悪れ盛りと云ふ此時代は無我無心に發育するものだから荒れ廻るものだ愚親はやれ危險だ惡口だと叱つたり打たり世話役するが自然の發育を中止すると同様な身體各部の發育は各々時期がある七八歳の時は誰も惡まれ口する者だ畢竟口中の發育盛なる爲である此惡口は無我無心で言ので決して惡意ある筈はないのに親は之を氣にして惡み叱るから遂に大切なる五官の一部の發育を鈍くする實際此時期に叱られたり打れたりした子供成人して多く口中發育不足の爲め能辯者にはなれない

## 學童保護法

四二

今日の教師は皆年若の爲め活潑の氣と當世學力は有ても實驗が浅ひから此學童は何か優るが何は劣る其は身體の何の部分が発育不足の結果だとか云事までは究めず且此不同なる多人數な學童に向て平均に卒業させむと希望するから學童は優劣共に競争心を起し反て五官の發育を害なひ優者は彌々早熟し劣者は益々愚鈍になる因て教師は家庭の監督鈍きを誹り家庭は學校の積込主義を恨む畢竟一は父母不攝生の罪一は教師が學童の長處を採らぬ罪だ此二罪者の養育を受た學童は體格不完全だから精神も幼稚の爲め十五六歳になると世の先輩なる不良者の爪に觸れ易く多く遊惰者となり浪費者となり不平者となり危険者となり犯

罪者となり自殺者となる我獨生法に依て出生する小供は多少甲乙ありても皆健全者であるから五官も隨て完全である五官完全なれば能く事物を悟る悟る者は迷はない迷はないから善良なる目的を遂行するものだ

## 玩弄物を授けぬ事

犬猫は玩弄物がなくても發育して獨立獨行する畢竟犬猫は好奇心がないから欲心も發生しない私欲がなひから他を害のふ事もない其故他から悪まれも羨まれもしないから争ひもなく心配もない心配もなひから泣きことも笑事もない只食物の心配だけに外に心を勞することがないから知覺は鋭敏だ人間の兒も矢張欲心の少なき者だのに愚な親は小兒を活た玩弄物と心得へ種々の玩

四三



弄物を授けて其喜ぶを見て喜びたがるから自然に玩弄物好みになる玩弄物は時代に依て異なるから壯年者は幼稚代の玩弄物を好まない老年者は自分が古いから骨董品を愛玩するが壯年の好む物は愛さない結局玩弄物は他人に觀せて誇る材料だけにて實に苦駄羅の物です小兒に玩弄物を授けるのは害あつて益がない其證據に山家の小兒は種々玩弄物を得られぬ爲に眼力も腦力も都會の者より健全である

以上述べた通りに行なへば賢兒が出来る行なはないと愚物が必ず出来る尤も今の未婚者は多くは不健全なる親の子孫だから悉く賢兒を産ないとしても愚物は産ない其子が矢張此方法を守り行なへば必ず孫は健全となり賢兒となる此賢者が博く聞見して智仁勇の三徳さへ備へたら聖人にもなれるのだ

### 智仁勇は人道

智仁勇を古來貧血學者は餘り細かく説明する爲に反て世人が行はない 智とは我身に觸れ我目に映る萬事萬物を識別するを云ひ仁は我身を愛する如く他をも愛すと云ひ勇は其を行ふと云ふだ禽獸でも智力と勇氣は持て居るが利己主義だから仁は持て居ない人間も此世に獨りて在たら仁義禮智信も必用がない其代り人間だか何だか自分で自分が判らない故に仁は二人と云義にて二人以上集合して初て人也と互いに稱する事になり恥羞の念も起り人情も起り其情が親子兄弟から朋友知己と階級的に博く愛するから自然禽獸に遠ざかりて人道と云のが出来たのだ歴史上此智仁勇の三徳は支那が早く宣傳仕た爲め我神祖も之を行ひ人

皇も之を繼承されて君臨し賜ふ惜い事に本元の支那は斯道を孔子に止め秦から以後は智力一方の法律を以て霸道を行ひ遂に優勝劣敗の革命國と成果たのだ

釋伽も耶蘇も皆此智仁勇の三徳を自から行ひ宣傳したに違ひない然るに末世の僧侶は其道を聞き違ひ自身から行はずして口先計りの者多くなりやれ愛は平均とか平等にとか民情にとか治民政略に唱へるから益々末世の者は智力に偏したり博愛に偏したり勇氣に偏して遂に佛耶の眞意を混亂仕てしまひ之では人類の平和を望むでも反て墻壁を設けて優勝劣敗など、禽獸道に接近するの拙ない時世に陥りはせぬか

### 神は自然の別名

古來貧血學者は神の恵みは平等である階級は不公平で神意でないといと唱へ愚人を喜ばすから愚人は自分を知らぬの智力がなく單に形が同じなら人に賢愚はないと思ひ不平を鳴らし騒ぎ出すから底て智仁勇を行ふ者が之を鎮撫仕たから衆人が難有いとか救はれたとかにて其人を尊敬して我上に推して後世神と稱へたのである畢竟天地自然の理に合した行ひの人であつたからだ今人の崇拜する神佛も自然を指すより外にはないのである其證據に火の炎ゆるも水の流れも血脈も皆波動があるのだダラシなく動くものでない其自然に起る波動の高低が階級であるので今云平等は出来ない相談で却て神意ではない此事は胎内發育の完全者なら必ず悟れるものだ

## 階級は神意

四八

人道を歩行するには此自然なる階級に依らねばならない假に一箇のパンを預けて飢た三人の口へ一時に食せたいと思ても二本の手では出来ないから兄から弟とか又は弟から兄とか順次に食せなくてはならぬ之が階級である其を貧血兒程飢方も早いから與へるのが遅いと云て不平を鳴す鳴す者は自然に反むいた不平である兎に角人道を行ふには第一胎内發育完全な者を多くせねばならぬ完全な者は其頭腦の細胞に常に血液が十分灌ひて居から何事も明晰に知覺する俗に血の巡りの悪い男だなどと云ふ其通りである彼電車に乗ても貧血の人は利己心強く禮讓も無いから戸口に立塞かり結局車掌と口論でもするより外能のなき愚者

である多血者は直に他人の便利や難澁を推察するから自分は近くで下車するに不便でも電車の中央まで進んで他に便宜を與へる之が所謂智仁勇である

元來我國は皇華士平の階級制度が自然にあり二千近くの姓を稱へて居るが五千年前の古は畏れ多くも今云ふ神祖の分家である現に我等の體内に流るる血液も神祖の分配されたものであるから人心も一致して親睦せねばならぬのに自分ばかりの利益を計るから遂に喧譁口論などして所謂血で血を洗うと同じ他の革命國に誇る事が出来なくなる結局人の人たる禮儀が薄くなりたのだ祖先の同じなりと云事は近日姓氏の手引草に述べ積りなれど一例を申すと世間に數多き田中姓は稻目姓から稻目は武内宿禰から武内は人皇八代孝元天皇皇子から出て居る

抑も恥羞の念は何から發生すると云は是も自然に人の性から起る人の性は老莊は善と云ひ荀子は惡と云ひ楊墨は善惡相混すと云ひ歐米學者も多く善を説く彼禽獸でも利己主義ながら其性は善である其性の善なる所以は彼我共に清潔を好み不潔を嫌う清潔は惡臭がない不潔は必ず惡臭がある惡臭なき物は誰も好む之が善の根源である惡臭ある物は誰も惡む之が惡の根源である諺に臭ひ物には蓋をさせろと之其性の善なるが爲に其惡臭を掩うのだ人の恥羞心は其惡臭から發生する其證據に人身中惡臭ある所は誰も嫌うから之を隠す殊に女は男より惡臭の箇所一穴多いから恥羞心が男より強い昔倉侷が女字を造ても篆書に𠂔兩手下膝の上を掩てをる象形てはないか人は此恥羞心あるから誰も死だ後は子孫に土を蓋て貫うと云ふ考へも起るのだ彼犬猫でも死

期には其飼主に醜體を見せぬ考へから遠方へ行て倒れるではないか

我同胞は他國人と違ひ遠く神祖近く皇祖の血液を拜受して居るから恥羞心が特に強い之が爲め世界無比の皇國を維持して居るのだ此恥羞心が強いから何程貧賤になりても自尊心があるから悲しんだり憂へたりして迷はない迷ふ様な者なら必ず自尊心がないから外來思想に動搖する動搖する様な者幾人製造しても父母死後の醜體に土を蓋ふ者がないから勢ひ犬死同様だ我同胞なる未婚者は國家の爲め吳々も賢兒生方を實行されたい昔の如く東洋の君子國に復古すれば自今生れる兒童は皆賢者だから惡しき思想病や疾病に侵されぬから第一警察や監獄醫藥や宗教の必用もなくなる左様なると我帝國は世界の模範國となるから軍

備も無用となり眞の世界平和が行はれる其時は實行された諸夫婦は神に崇め祭らるるに違ひない若し是まで通り快樂主義の夫婦で推通して行つたら結婚後一兩年を出てす妻子の不健康を悔ゆる計りでなく他日余の著す未來記を讀みて戰慄するに違ひない穴かしこく

大正九年 月 日印刷  
大正九年 月 日發行

東京市牛込區下戸塚町三一

著作兼發行者 松原勉

東京市牛込區籠筥町四十四番地

印刷人 重川武道

120  
121

終

